

WRV NEWS LETTER

WILDLIFE RESCUE VETERINARIAN ASSOCIATION

特定非営利活動法人 野生動物救護獣医師協会

No.131

2024.12.30 発行



野生動物救護獣医師協会は、保護された傷病野生鳥獣の救護活動を通じて市民の野生鳥獣保護思想の高揚をはかるとともに、地球環境保護思想の定着化を目指しています。そのために、常に世界の情勢を学び、会員相互の連絡、交流を行い、治療、研究および知識の普及をはかり、社会に貢献していくことを目的としています。

No.131 目次

施設紹介ー河北町児童動物園	2-3
施設紹介ー北秋田市阿仁熊牧場（くまくま園）	4
バードストライクと環境影響評価（1）	5-10
冬に活動する昆虫	11
寄付のお礼	11
事務局日誌	11-12

河北町児童動物園

河北町商工観光課 かほく発信・ブランド推進室
観光振興係 総括主任 阿部 久喜

【河北町児童動物園について】

山形県内唯一の動物園である河北町児童動物園は、もとはと言えば怪我をした鳥獣類を保護したことから始まりました。

昭和28年に、当時の谷地保育所長であった宇井興一郎氏が、動物愛護と児童の情操教育の一環として位置付け、中央児童遊園地（現在の役場敷地内）の一角に今日の動物園の前身をスタートさせました。その後、昭和40年に河北町役場が隣に建設されたことから公共施設として整備され、昭和52年と平成20年に大規模改修工事を行い、現在の形となりました。

現在は、怪我をした鳥獣の保護などによって徐々に飼育頭数が増えていき、30種150点の動物を飼育しており、さらには、山形県内唯一の動物園として、各メディアで紹介されたことから、町内外から次第に人気を集めることになりました。

当園は町が管理運営する施設であり、入場ゲートはなく、年中無休、24時間いつでも無料で入場可能なことから、町民はもちろん、町内外の小学校や幼稚園などの遠足でも来園があり、児童や生徒にとっては、文字どおり生きた教材として定着するようになりました。

現在、当園では、隣接する新庁舎完成に伴い、河北町児童動物園リノベーション事業として、新庁舎と一体化するようなふれあい施設の建設や公園の整備などをおこなっており、令和7年4月のリニューアルオープンを目指しています。



【動物園全体写真】

【野生鳥獣救護事業について】

当園は、山形県からの業務委託により、「河北野鳥救護所及び野生獣類救護所」としても運営しています。園内に設置している救護檻や一般の飼育檻、バックヤードなどを利用して、山形県内で怪我をした野生鳥獣の救護などを行っています。近年における救護実績としては、主にトビ、ノスリ、フクロウ、チョウゲンボウ、アオゲラ、モズ、キジ、ノウサギ、コハクチョウ、オオコノハズク、キツネなどが挙げられます。

< 傷病鳥獣の救護実績 >

区分	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
救護数	31	29	33	15	15	17	11	7	12
放野	2	6	4	5	5	3	0	0	1



【ニホンザル】



【キツネ】



【怪我をしたノスリ】

山形県では、平成 29 年に救護等対象鳥獣の範囲が見直され、狩猟により傷ついた鳥獣や、生活環境や農林水産業に被害をもたらすおそれのある鳥獣、特定外来生物などは、原則として救護の対象としなくなったことから、近年の救護数は以前と比較すると減少しています。また、山形県における高病原性鳥インフルエンザの警戒レベルが3以上となった場合には、感染防止対策のため、救護及び受入れを中止しています。

野生に戻すことが困難な個体に関しては、園内で飼育・展示することで、動物の生態についての学びの機会を提供するとともに、野生鳥獣救護事業に関しての理解を深めてもらうことに一役買っています。

【課題と今後の取り組み】

当園は、救護された個体の処置室もなく、住宅に囲まれたまちなかにあるため、十分な広さはないことから、限られた環境の中で飼育員が対応している状況です。しかし、救護の連絡があった場合には、治療した個体を収容できるスペースの確保が困難でも、救護を断ることはなかなか難しいのが現状です。

また、野鳥のヒナの保護、救護対象ではない鳥獣の救護の連絡があった場合、救護できない旨を説明するも、やはり納得いただけない場合もあり、丁寧な対応が必要なこともあります。

令和7年4月オープン予定のふれあい施設内には、新たに救護処置室を設ける予定となっています。リニューアルオープンを一つの契機に、これまで以上に野生鳥獣の救護に関する啓発や、野生鳥獣救護事業に関しての理解を深めてもらえるよう努めていきたいと思っております。



【ふれあい施設内観パース】

北秋田市阿仁熊牧場(くまくま園)

【沿革】

●マタギの里 熊牧場 平成元年（1989年）～

現在くまくま園の位置する奥阿仁地区は、阿仁マタギで有名な地域であり、マタギにとってクマは山の神様から授かる特別な動物でした。

平成元年に熊牧場として開園した当初は、秋田県内で親ぐまが有害駆除された際に残された子ぐまを飼育していました。同時に、全国から親ぐまをなくした子ぐまたちを受け入れていました。

●北秋田市くまくま園 平成 26 年（2014年）～

2012年に県内にあった「秋田八幡平クマ牧場（鹿角市）」が、人身事故を起こしたことで閉鎖。この事故は全国に知られ、多くの人が心を痛めていました。

この施設閉鎖により、秋田県が主導してクマの受け入れ先を探していた中で、北秋田市と秋田県が協議を行い、秋田県の出資で新しい施設を建設し、北秋田市でクマを引き受ける事となりました。

新たなヒグマ舎が2014年に完成、そこに八幡平クマ牧場のクマを迎え、「くまくま園」（正式名称は北秋田市阿仁熊牧場）としてリニューアルしました。

なお、現在園にいるクマは、園内で繁殖したクマがほとんどです。



くまくま園の外観



園内の子ぐま

【くまくま園とは ～命の森、学ぶ森～】

くまくま園は、山に生かされ、クマと共存してきた「マタギ」文化を育む森吉山の豊かな自然の中で、クマとのふれあいを通して「ここだけ」の体験を提供するとともに、クマとの共存で造られてきた豊かな森や集落での楽しいエコツーリズム、環境学習、資料展示、「クマとヒトの共存」を目指す総合的な研究などを実践する場です。

訪れる人々に「生命の尊さ、大切さ」を感じていただき、自然と人と動物（クマ）をつなぐ場であることを目指しています。

園内では、ツキノワグマとヒグマが飼育されています。また展示室では常設展の「クマを知ろう展～クマと仲良く暮らすために～」が実施されていますが、直近のニュースを踏まえ内容の更新を検討しています。

いっぽう、園内施設においては、徹底した安全管理によりこれまで一度も事故を起こしておらず、安心してお出かけください。

（※本稿は同園のホームページの内容をもとにまとめられたものです。）

バードストライクと環境影響評価(1)

WRV理事/高坂どうぶつ病院 院長 小山 正 人

1. 日本鳥学会2024年大会でのポスター発表

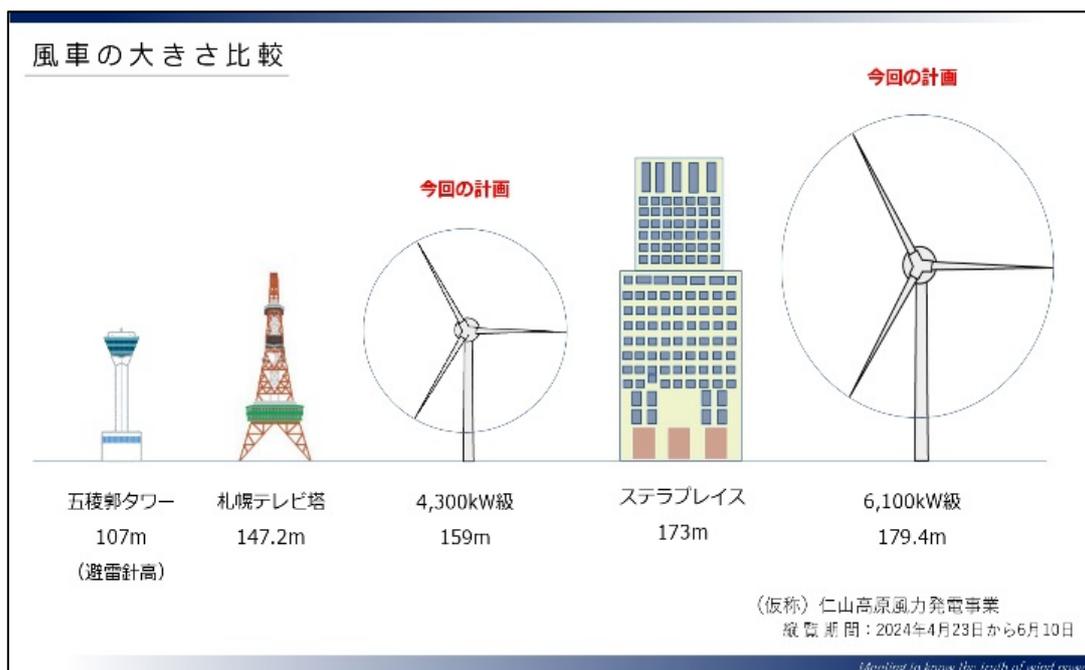
今年の9月に東京大学で行われた日本鳥学会2024年大会で、バードストライクと環境影響評価をテーマにしたポスター発表を行いました。北海道・東北を中心に全国的に陸上風力発電が増え、日本の全電力発電量のうち、風力発電によるものが2023年に1%を占めるまでになりました。政府は、さらに2040年に5%まで増やそうとしています。2024年12月10日現在、環境影響評価中の陸上風力が275件、洋上風力(沿岸風力)は78件あり、これからもどんどん増えていく予定です。日本ではわずかとなった原生的な自然環境である植生自然度9や10の地域、保安林なども事業地となっているケースが多々あります。私は、生まれ育った北海道や大学時代を過ごした東北地方の自然が破壊されている現状を何とかしたいと考え、全国再エネ問題連絡会 (<https://saiene-net.org/>) に入り、各地の市民団体の方々と協力して、再エネ乱開発問題の解決に取り組んでいます。

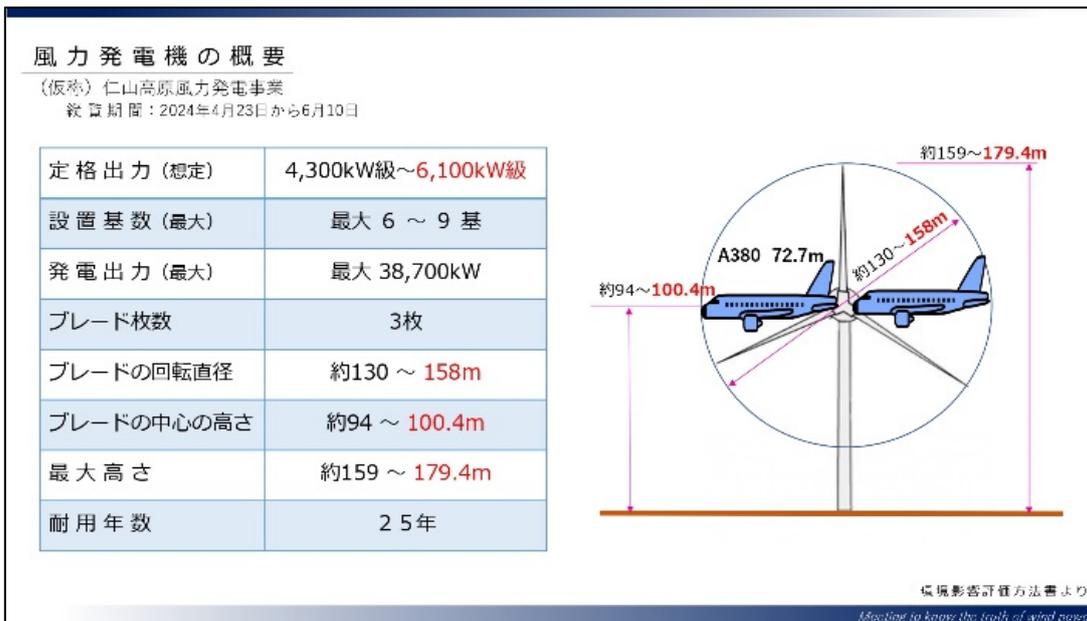


2. 風力発電

風力発電は、風の力を利用して風車を回し、風車の回転運動を発電機を通じて電気に変換する発電方法です。自然の風を利用する発電方法のため、風向きや風速によっては発電量が下がる恐れがあり、電力を毎日一定量供給するという「安定性」の面では弱い部分があります。季節や気候に左右されやすく、また台風などの暴風時にはブレードの損傷などの危険があるため、稼働させることができません。また、年間を通じて風の強い場所でないとい発電効率が悪くなるため、建設場所の候補地も限られます。発電設備がどのくらい有効に活用できたかを表すための数値として、設備利用率というものがあります。発電設備の実際の発電量が、仮にフル稼働していた際の発電量の何パーセントほどであるのかを示す数値です。この数値が高ければ高いほど、その設備を有効利用できているということになります。設備利用率はおおよそ洋上風力は30%、陸上風力は20%、太陽光発電は13%です。陸上風力ではフル稼働の2割くらいしか動いていないため、常にバックアップのための火力発電や蓄電池が必要です。大きな地震の際には、ブレードが破損することもあります。停電時には停止するため、災害時に発電することができず、再始動するにも電力が必要です。

最近では風車が巨大化しており、陸上風力では4,300kW級が主流で、洋上風力では10MW級を超えるものもあります。





バードストライクは、風力発電施設の規模よりも立地に起因すると指摘されており、小型の風力発電施設(定格出力20kW以下)についてもバードストライクの対策が必要と考えられています。実際、小型風力発電施設における海ワシ類のバードストライクは、平成30(2018)年から令和4(2022)年3月までで7件が確認されています。なお、固定価格買取制度(FIT制度)において小型風力発電施設として認定され、未稼働となっている案件は、全国で5,700件(北海道に1,600件)以上あります(2021年9月末時点)。

3. 風車稼働後の衝突事例の報道

風力発電施設の稼働が増えるとともに、新聞、テレビで野鳥の風車衝突事故の報道が昨年頃から増えてきました。これまでに報道された事例をご紹介します。

①2023年5月11日

八峰風力発電所 風車衝突14個体確認 純絶滅危惧種ミサゴも(北羽新報)

秋田県八峰町の大型風車GE製3,200kW・7基が並ぶ八峰風力発電所(前田建設工業が建設)では、稼働後の3年間で14個体の鳥類やコウモリ類が風車に衝突した。調査範囲は風力発電機の最高到達点に合わせ、風車を中心とする半径135.5m、1基あたり20~30分歩き痕跡を目視で確認した。1年目は26回、2年目は28回、3年目は2か月間計9回の調査が行われた。衝突した鳥種はミサゴ2羽、カモメ、タカ、カラス等であった。環境影響評価書では、ミサゴの年間衝突確率を0.028羽と予測していた。調査で大量の羽が確認されたのは8例あったが、これは衝突個体から外されている。すぐにキツネやタヌキに食べられるため、実態を表しているとは言えない面がある。

②2024年4月6日

新能代風力発電所 死骸・痕跡は74個体 少なくとも30個体衝突か(北羽新報)

秋田県能代市の海岸砂防林に大型風車出力2,300kW・7基が並ぶ新能代風力発電所(東北電力)で、運転開始から2年間目視で調査し、風車周辺で74個体の死骸・痕跡が確認された。調査は最高到達点に合わせ、風車を中心として半径120mの範囲で年間48回行われた。死骸・痕跡は猛禽類がミサゴ、ハイタカ、オオタカ、ノスリなど9個体、フクロウ類がオオコノハズク、フクロウ、トラフズクの4個体、カモ類、ハト類など49個体の計74個体であった。

③2024年4月18日

幌延町 風力発電所 オジロワシなど3羽が風車に衝突して死ぬ(NHK)

北海道北部の幌延町の浜里ウインドファーム(ユーラスエナジーホールディングス)では、2023年5月の運転開始から2か月の間に、オジロワシとオオワシあわせて2羽が風車に衝突して死亡した。発電所にはシーメンスガメサ・リニューアブル・エナジー社製の発電出力4,300kW、高さ約150mの風車14基が備えられている。事故後、タワ

一部分に黒色の目玉模様を施した。しかし、2024年3月にもオジロワシ1羽が衝突死した。10か月間の間に計3羽が犠牲となった。

④2024年6月18日

オジロワシ2羽風車衝突死 常呂能取ウインドファーム 市民団体「影響、調査を」（北海道新聞）

2024年3月に運転を始めた北見市常呂町と網走市能取地区にまたがる常呂能取ウインドファーム（ユーラスエナジーホールディングス）は、シーメンスガメサ・リニューアブル・エナジー社製の発電出力4,300kW基の風力発電機を備える。稼働後2か月の間に、オジロワシ2羽が衝突死した。1羽目はユーラス社の見回りで発見。2羽目は、研究者がオジロワシに付けた発信機が移動を示さなくなったことから発見につながった。

⑤その他

2008年9月には岩手県の釜石広域ウインドファーム（株式会社ユーラスエナジーホールディングス）でイヌワシの、2023年7月には山形県のJRE鶴岡八森山風力発電所（ENEOS リニューアブル・エナジー株式会社）でクマタカの衝突死が明らかとなっている。

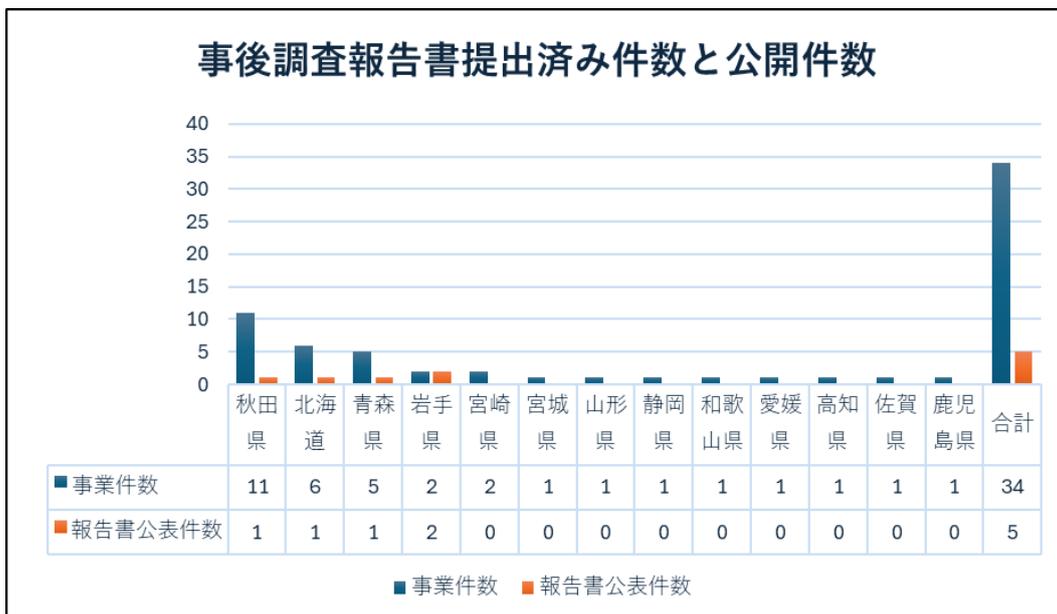
4. 環境省のバードストライク報告

環境省では、絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律により、国内希少野生動植物種に指定されている鳥類の保全のため、シマフクロウ、タンチョウ、オジロワシ及びオオワシの4種の傷病個体（死体を含む）が発見された際には収容し、現場状況や収容個体を調査し、原因の解明に努めています。平成12年から令和5年までの24年間で、オジロワシは83羽、オオワシは5羽が風車衝突により収容されています。これは発見されたものだけなので、実際にはもっと多いものと思われる。

5. 全国の環境影響評価事後調査報告書の公開状況

環境省の鳥類等に関する風力発電施設立地適正化のための手引きによると、稼働後の死骸調査の期間は最低1年間、調査間隔は最低月1回、できれば月2回とされています。

事後調査報告書を経産大臣に提出している事業は、2024年8月現在、全国で34件ありました。そのうち、提出後約1か月間の縦覧期間が過ぎても公表し続けている事業は5事業だけでした。具体的には、ヴィーナ・エナジー・ジャパン株式会社、コスモエコパワー株式会社（2事業）、岩手県企業局、株式会社ウェンティ・ジャパンの4社でした。この調査の後、2024年11月に野辺地陸奥湾風力発電所（事業者は東急不動産株式会社）の事後調査報告書が公表されましたが、縦覧期間終了後の現在は見られなくなっています。



6. 現在、稼働中および計画中の風力発電事業

北海道風力発電問題ネットワークの佐々木邦夫代表から提供いただいた資料によると、2024年7月10日時点で、北海道内で稼働中の陸上風力発電機は402基あり、計画中のものがさらに1719基あり、現在の5.3倍に増やすことが計画されています。

稼働及び計画の状況（陸上）
2024/12/01 時点

※ 出力 (kW) 及び基数は最大値

	稼働(kW)	稼働基数	計画(kW)	計画基数
道北	729,350	239	3,294,000	751
道央	208,000	69	2,050,290	537
道南	281,495	91	2,155,600	480
道東	42,450	19	48,000	12
計	1,261,295	418	7,547,890	1,780

	総出力(kW)	基数
合計	8,809,185	2,198

約4.3倍の計画

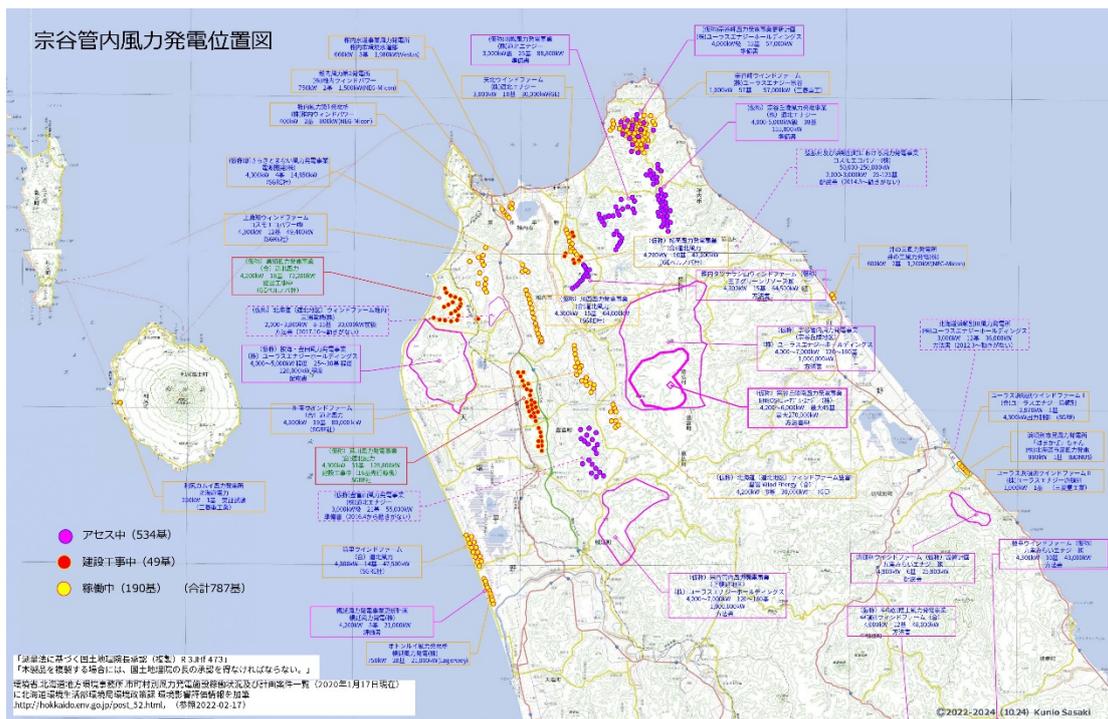
※ 道北：上川・留萌・宗谷
道央：石狩・空知・胆振・日高・後志
道南：渡島・檜山
道東：網走・十勝・釧路・根室

※ データ作成においては、北海道地方環境事務所「風力発電一覧」<http://hokkaido.env.go.jp/20200117%281-1%29.pdf>、(参照2020-1-17) および、環境アセスメント事例情報（環境省）http://assess.env.go.jp/2_jirei/index.html、(参照2024-7-10) により作成したものである。

Meeting to know the truth of wind power

①北海道宗谷管内の風力発電事業

北海道の宗谷管内では、稼働中、建設工事中、環境アセスメント中の風力発電事業が計36事業あります。風況や工事のしやすさなどから風力発電の適地とされる道北では、事業が集中することによる累積的影響が心配されています。2024年8月13日付の北海道新聞では、渡り鳥が風車を回避するために移動ルートの変更を強いられる「障壁影響」が生じていることが、日本野鳥の会（東京）による調査で分かったと報道されています。渡り鳥は、50キロ飛ぶごとに体重の1%に相当するエネルギーを使うといい、風車の急増で移動ルートが妨げられれば、目的地や中継地にたどり着けずに死ぬなどのリスクにつながりかねません。風力発電による鳥類への影響については、バードストライクが広く知られています。海外では以前から障壁影響も問題化していましたが、国内の現地調査で影響が初めて明らかになりました。



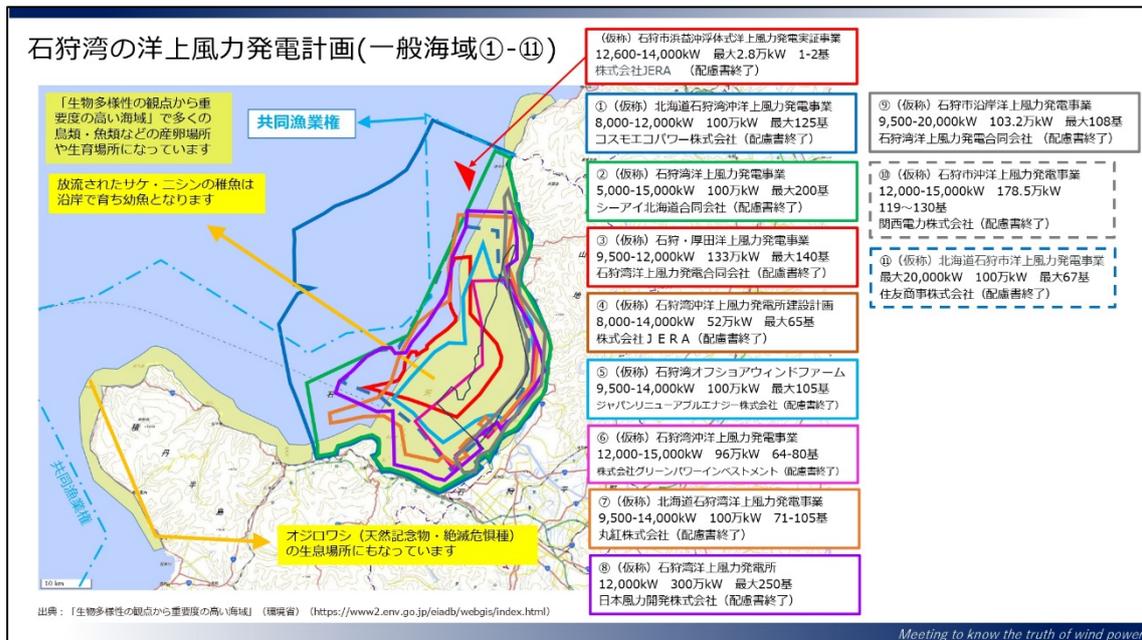
②石狩湾の洋上風力発電計画

2024年1月、北海道石狩市で石狩湾新港洋上風力発電所の商業運転が始まりました。株式会社グリーンパワーインベストメントにより、国内初導入となる8MWの洋上風力発電機が14基設置されました。さらに石狩湾新港の外側の一般海域では、11事業もの風力発電事業の環境影響評価が行われています。

石狩海岸は、小樽市銭函から石狩市厚田区望来までの約25kmの砂浜海岸です。海から内陸へ汀線と垂直方向に、砂浜から海岸砂丘を経て海岸林に至る連続性を、自然状態のまま維持している国内唯一の海岸です。国内の自然草原は国土の1%程度とされており、中でも海浜植物からなる草原が残っていることは極めて重要です。石狩湾の周囲は、石狩川周辺の湿原、砂浜及び自然草原、砂丘のカシワ林など多くの自然が残されています。

石狩市が平成29、30年度に実施した、環境省委託事業「風力発電等ゾーニング可能性検討モデル事業」の中で作成した風力発電ゾーニング計画によると、ほとんどの風力発電計画が、生活環境、自然環境の保全上重要な地域や、各種関係法令等による保護地区や規制区域などに指定されている「環境保全を優先すべきエリア」に含まれています。

石狩湾は、環境省の「生物多様性の観点から重要度の高い海域」に指定されています。これは海洋の生物多様性の保全と、持続可能な利用の推進に資することを目的としており、生態学的及び生物学的観点から、重要度が高いことを科学的そして客観的に明らかにしたものです。



7. 事後調査終了後のバードストライク

ほとんどの環境影響評価事後調査は、稼働後1年で終了します。しかし、調査終了後にもバードストライクは起きています。秋田県で野鳥調査をしている飯田裕美さんから情報提供を受けましたのでご紹介します。

①発電所名：由利本荘海岸風力発電所

所在地：秋田県由利本荘市子吉川河口南側（水林地区、海士剥地区）

設置者名：J-POWER（日本電源開発株式会社）

発電出力：16,100kW

風車発電機：エネルギー E-82 (2,300kWx7 基)

工程：2015年7月着工、2016年9月系統連系・試運転開始、2017年1月営業運転開始

- ・発見日：2018年3月18日、トビ
- ・発見日：2018年4月14日、ミサゴ、オス、1羽



風車に衝突して死亡したミサゴ

<発見時の様子>

3月中旬からペアリングを開始し、海岸から約3km内陸の新山公園に営巣したミサゴのつがいを日々観察していたところ、順調にメスにエサを運んでいたオス個体が4月14日から帰って来なくなった。心配になり採餌場の一つである由利本荘海岸の様子を見に行ったら、由利本荘海岸風力発電所の子吉川に一番近い風車の真下でカラスの群につつかれているミサゴの死骸を見つけた。死骸は写真を取ってから近隣の砂地に穴を掘って埋めた。

・発見日：2018年11月8日、ハクチョウ類

②発電所名：にかほ第二風力発電所

所在地：秋田県にかほ市（仁賀保高原）

設置者名：J-POWER（日本電源開発株式会社）

発電出力：41,400kW

風車発電機：2,300kW×18基

営業運転開始：2020年1月

・発見日：2022年5月、トビ

③発電所名：秋田新屋風力発電所

所在地：秋田県秋田市新屋町（旧秋田空港跡地）

設置者名：コスモエコパワー株式会社

発電出力：1,990kW

風車発電機：日立製作所HTW2.0-86（1,990kW×1基）

営業運転開始：2016年2月

・発見日：2022年3月31日、カワウ

④発電所名：飛風力発電所

所在地：秋田県にかほ市大字飛字釜木森

設置者名：みんな電力株式会社（現：株式会社UPDATER）

発電出力：1,990kW

風車発電機：1,990kW×1基

営業運転開始：2021年2月1日

・発見日：2022年11月20日、トビ

(次号へつづく)

冬に活動する昆虫

冬になると、動き回る昆虫の姿をなかなか見ることができなくなりますが、そうした中で、身近な環境にもよく現れるのがフユシャクの仲間です。漢字で書くと「冬尺」で、冬に成虫として活動し、幼虫が尺取虫(しゃくとりむし)なのでこの名があります。国内では約35種が生息しています。と言っても、写真のようないわゆる翅を持つ蛾の姿となるのはオスだけで、メスは翅が退化しているため、外見からはおよそ蛾とは思われないかもしれません。幼虫が、コナラやクヌギの葉を好む種が比較的多いので、雑木林や樹木の目立つ公園などに出掛けてみると、彼らに出会う確率が高くなるでしょう。他の昆虫と違い、低温状態でも飛翔や交尾そして産卵すら可能で、実に特異な仲間と言えます。

一方、私たちにとっては少々やっかいな昆虫もいます。それはチカイエカです。

チカイエカは、地下にある浄化槽や側溝など、主に地下空間で発生することからその名が付いています。分類上はアカイエカの亜種という位置づけで、両種は外見上ほとんど区別が付きません。ただし、チカイエカはアカイエカと違って寒さに強く、冬場でも休眠することなく活発に飛び回ります。また、メスは最初の産卵に際しては吸血を必要とせず、また一度の産卵数が数百個に及ぶことも大きな特徴です。もちろん吸血も行いますので、冬に蚊にさされた経験のある方は、おそらくその犯人(?)はチカイエカで間違いないものと思われます。なお、チカイエカはアカイエカほどではありませんが、犬にフィラリアを媒介する可能性がありますので、自宅に飼っておられる方は念のため注意が必要です。



チャパネフユエダシャク



チカイエカ

(WRV 事務局長 箕輪 多津男)

【 事務局より寄付のお礼 】 寄付ご協力者(敬称略) (令和6年9月1日から令和6年11月30日)

○神奈川支部 2024.10.27 動物愛護フェアかわさき 1,600円 2024.11.4 秋の動物園まつり 3,450円

事務局日誌 2024.9.17~2024.12.15

=== 9月 ===

- 18: 令和6年度山梨県アライグマ捕獲従事者養成講習会 (山梨県・山梨県立図書館) 講師: 加藤
- 21: 2024 動物感謝デー in Japan (駒沢オリンピック公園: 資料配布) 対応: 箕輪
- 22: 埼玉西武アライグマ対策協議会シンポジウム「アライグマを知ろう! 対策しよう」(埼玉県・日高市生涯学習センター) 対応: 加藤、小山
- 25: WRV ニュースレターNo.130 発行 対応: 小松、箕輪、二階堂
- 29: 神奈川県野生動物リハビリテーター・県内傷病施設見学会 (金沢動物園) [神奈川支部] 対応: 皆川
- 29: 大阪野生動物リハビリテーター養成講座・第4回講習 (中津動物病院) [大阪支部] 対応: 中津
- 30: 犬猫・野生動物救護センターにてリハビリテーター活動 [神奈川支部] 対応: 皆川
- 30: 令和6年度第3回わいわいサロン (オンライン) [神奈川支部] 対応: 皆川

=== 10月 ===

- 03: 令和6年度山梨県アライグマ捕獲従事者養成講習会 (山梨県・山梨県立図書館) 講師: 加藤
- 03: 東京環境工科専門学校・油汚染鳥救護特別実習 (講義) 対応: 皆川
- 03: ワンヘルズ公開セミナー (日本獣医生命科学大学) 対応: 羽山、加藤
- 05: 川崎市夢見ヶ崎動物公園パークセンター・オープニングセレモニー 出席: 皆川
- 05~06: 第45回動物臨床医学会年次大会 (大阪国際会議場) 対応: 箕輪
- 06: 農文研修会 (東松山市) 対応: 新妻
- 06: 稲城市ふれあい健康・医療まつり (稲城市立病院健診センター) 対応: 小松
- 09: 神奈川県傷病鳥獣保護連絡協議会 (オンライン) [神奈川支部] 対応: 皆川
- 12~13: 金沢動物園 Zoo To Wild Fes Autumn (横浜市立金沢動物園) [神奈川支部] 対応: 皆川
- 15: 東京環境工科専門学校・油汚染鳥救護特別実習 (水鳥救護研修センター) 対応: 皆川、箕輪、二階堂
- 15: 第3回東京都獣医師会理事会 (東京都獣医師会会議室) 出席: 小松、中川、高橋
- 21,23: 犬猫・野生動物救護センターにてリハビリテーター活動 [神奈川支部] 対応: 皆川
- 21~23: ヤマザキ動物看護大学実習用ハト貸出 [神奈川支部] 対応: 皆川
- 26~27: (NPO)丹沢自然保護協会 第50回記念植樹 [神奈川支部] 対応: 皆川

- 27: 大阪野生動物リハビリテーター養成講座・第5回講習(中津動物病院) [大阪支部] 対応: 中津
- 27: 動物愛護フェアかわさき(川崎市・とどろきアリーナ) [神奈川支部] 対応: 皆川
- 28~29: 第1回油等汚染事故対策水鳥救護研修(水鳥救護研修センター) 対応: 中津、皆川、石原、箕輪、二階堂
- 30: JICA「海外保安実務者のための救護・環境防災研修」(水鳥救護研修センター) 対応: 中津、皆川、石原、箕輪、二階堂
- 31: 令和6年度笛吹市アライグマ捕獲従事者養成講習会(笛吹市学びの杜みさか) 講師: 加藤
- === 11月 ===
- 02: 第41回・野学校(小山台会館) 出席: 箕輪
- 03: 独協医療研修会(上野精養軒) 対応: 新妻
- 03: 稲城市防災訓練(稲城市立第4中学校) 対応: 小松
- 04: 秋の動物園まつり(川崎市夢見ヶ崎動物公園) [神奈川支部] 対応: 皆川
- 05: 南多摩獣医師会全体会議(絆ダイニング高幡不動) 対応: 小松
- 06: NACS-J市民カレッジ123「里山で今何が起きているか」((公財)日本自然保護協会・オンライン) 対応: 小山
- 08: いきものサイエンスカフェ「アライグマ防除の基本のき」(埼玉県環境科学国際センター・オンライン) 対応: 小山
- 09: ふじさわ環境フェア(藤沢市民会館・前庭) [神奈川支部] 対応: 皆川
- 10: 第8回高校生によるシンポジウム「チームアライグマと考えるネイチャーシンポジウム」(埼玉県立川越女子高) 対応: 加藤
- 12: NHK・Eテレ「おぼけの学校たんけんたん」 出演: 中川
- 13: ワイルドライフカレッジ 2024「第7回 小型哺乳動物を取り巻く問題と保全活動の取り組み」(野生生物保全論研究会・オンライン) 対応: 小山
- 16: 長浜公園感謝DAY(横浜市長浜公園) [神奈川支部] 対応: 皆川
- 17: 日本獣医生命科学大学獣医学科4年次野生動物学実習(水鳥救護研修センター) 対応: 加藤、皆川、箕輪、二階堂
- 20: 令和6年度第2回東京都外来鳥獣(アライグマ・ハクビシン)防除対策作業部会(Web会議) 対応: 加藤
- 20~21: 第2回油等汚染事故対策水鳥救護研修(水鳥救護研修センター) 対応: 皆川、御厨、箕輪、二階堂
- 22: 藤岡市認定農業者連絡協議会地域リーダー育成研修(群馬県・大和屋) 講師: 加藤
- 23~24: 鳥類標識調査100周年記念公開シンポジウム/日本鳥類標識協会2024年大会(東京農大世田谷キャンパス) 対応: 小山
- 24: 野毛山動物園バードウォッチング [神奈川支部] 対応: 皆川
- 24: 大阪野生動物リハビリテーター養成講座・第6回講習(中津動物病院) [大阪支部] 対応: 中津
- 28: 犬猫・野生動物救護センターにてリハビリテーター活動 [神奈川支部] 対応: 皆川
- 29: あすもりフォーラム2024(コープ未来の森づくり基金・オンライン) 対応: 小山
- 30: 公開シンポジウム「動物の安楽死を考える」(日本法獣医学会・オンライン) 対応: 小山
- === 12月 ===
- 01: 神奈川県野生動物リハビリテーター(2級)養成講座(講義: 県民活動サポートセンター) [神奈川支部] 対応: 皆川、箕輪
- 01: 第20回SCAPARAワークショップ(麻布大学 大教室) 講師: 田向
- 01: 2024年度第3回獣疫学会担当理事・幹事会(Web会議) 対応: 加藤
- 04: 東京都獣医師会・都知事予算要望(東京都庁第1本庁舎会議室) 対応: 小松、中川、高橋
- 07,14: 日本獣医生命科学大学 特別講座「学校飼育動物について」 講師: 中川
- 07: 第42回ナショナル・トラスト全国大会(IKE・Biz としま産業振興プラザ) 対応: 小山
- 08: 神奈川県野生動物リハビリテーター(2級)養成講座(講義: 県民活動サポートセンター) [神奈川支部] 対応: 皆川、金坂、加藤
- 08: モニタリング1000陸生鳥類調査研修・交流会((公財)日本野鳥の会・オンライン) 対応: 小山
- 09: 景観生態学連続セミナー「半自然草原の成り立ちと管理(7章5節)」(日本景観生態学会・オンライン) 対応: 小山
- 11: 愛鳥懇話会(アークヒルズクラブ) 出席: 小松、箕輪
- 11~2/24: 「水と生き物」展(港区みなと科学館) [神奈川支部] 対応: 皆川
- 12: 令和6年度「ヒナを拾わないで!!キャンペーン」関係三団体合同報告会(Web会議) 対応: 箕輪
- 13: アニマルウェルフェアシンポジウム in 東京~持続可能な畜産業を目指して~((公社)畜産技術協会・オンライン) 対応: 小山
- 13~15: 第30回日本野生動物医学会大会(沖縄科学技術大学院大学・那覇市IT創造館) 対応: 羽山、加藤、田向
- 15: 犬猫・野生動物救護センターにてリハビリテーター活動 [神奈川支部] 対応: 皆川
- 15: 神奈川県野生動物リハビリテーター(2級)養成講座(実習: 犬猫・野生動物救護センター) [神奈川支部] 対応: 皆川

野生動物救護獣医師協会 (ホームページ) <http://www.wrvj.org/> (E-mail) kyugo@wrvj.org

NEWS LETTER No. 131 2024.12.30 発行

発行: 特定非営利活動法人 野生動物救護獣医師協会

事務局: 〒190-0013 東京都立川市富士見町1-23-16 富士パークビル302 TEL: 042-529-1279 FAX: 042-526-2556

発行人: 新妻 勲夫 編集文責: 小松 泰史 編集担当: 箕輪多津男